

# 单身生活と暇な時間つぶし

測量技術センター関西支所 雨宮 秀雄

「单身赴任の暇な時間をどう過ごすか」というのが、1年半前の課題であった。そこで暇な時間つぶしと健康作りを兼ねて、近場の野山や街中を歩くことにした。試しに熊野古道（大阪天満橋～住吉大社）（21年4月29日）から歩き始めたのを皮切りに、関西圏の野や山、何でもかんでもといった状態で、現在（22年11月末）までに40コース・総延長606kmを歩いた。大阪天王寺から自宅のあるつくばまで鉄道換算で627kmだから、まもなく到達できる距離である。

歩き始めたきっかけは暇つぶしであるが、これがいつの間にか癖になってしまったのだからおもしろいものである。どうせ2、3ヶ月も続けばいい方と思っていたのだが、今現在も続いている。

月に一度の帰宅と野山歩きを組み合わせつつ、いつの間にか毎週土曜日が来るのが楽しみになっているのだから、単なる暇つぶしから脱皮していることは確かである。

これまでに歩いた中で気に入ったコースと思いいに残ったコースを5つばかり紹介する。

## (1) 近江東海道・鈴鹿峠越え (21/6/13、17km)

ここは現役時代の思い出の地である。昭和47（1972）年に三重・滋賀県境を貫く鈴鹿トンネルを含む国道1号の一等水準測量を行ったことがある。現在の鈴鹿トンネルは上下線別々になっているが（現地に行って初めて2本あることに気づく）、昭和47年当時は上下線で1本であった（昭和53年に2本になったとのこと）。この270m たらずの一等水準測量で苦労したト

ンネルは今どうなっているか、当時、根宿（測量作業で出張した際、泊まる宿のこと）としていたドライブインは今もあるか、という気持ちがあり、わざわざ鈴鹿まで出かけた次第だ。大阪から東海道線・草津線と乗り継いで貴生川駅まで、そこから甲賀市営バスに乗り換え滋賀県・土山まで行き、ここを起点として徒歩で三重県・関宿までの全長約17kmのコースである。

どうも私が測量したトンネルは、現在、上り線専用となっていて、トンネル入口まで行くことが出来なかったのが残念であった。測量当時は上下一車線ずつの対面交通で道幅も狭く、暗い照明が点っている程度であった。通常、水準測量は4名一組で行うので、これでは標尺を照らす照明要員と交通整理要員が足りないので、今では考えられないが土山町役場建設課（当時）に泣きつき、職員数人の助けを借りて、一時的に交通制限をかけた上で、無事トンネル内の測量を終えることができた。遠い昔、水準測量に携わっていた3年の間には、これ以外にも沢山の長いトンネルを測量してきたが、短いながらも鈴鹿トンネルほど気を遣ったことはなかった。



鈴鹿峠の国道1号（三重県側）

それだけ国道1号の交通量が半端ではなかったということだろう。

鈴鹿峠を越える道の上には、写真のような巨大な万人講常夜燈が立っている。ネット検索での解説によると、これは今から約270年前に建てられた四国金比羅神社の燈籠で、往来する商人の信者が灯をともしたという。重さは38t、高さは5.5mもあるそうである。



鈴鹿峠：万人講常夜燈

## (2) 信貴山(21/7/4、10km)

仲間との山行きであるが、仲間といっても2年前までは仕事に関係する挨拶や打合せで同席する程度の付き合いだった。その当時、私は公務員であり、仲間は機器メーカーの社員、つまり利害関係者ということである。私が民間人になったため、気兼ねなく山行きができるようになったのである。

信貴山は大阪から近く、歩行距離約10km足らずのどちらかという物足りなさを感じる山であるが、足慣らしにはちょうど良い距離かも知れない。この山行きの最後の過程で、厳しい下りが待ち受けていた。以前、敷設されていたケーブル軌道跡(標高差140m、距離740m、傾斜角約11度)を一気に下りるので、日頃の運動不足の解消に大いに役だった。また、信貴山には朝護孫子寺(ちょうごそんしじ)という寺院があり、大きな張り子のトラが門前を守っている。土産物としても張り子のトラの置物が売られていて、ガイドブック頼りの私は早くか

らこのトラに目を付けていて、機会があれば買う気でいた。今、このトラは寅年の還暦を迎えた私の脇に鎮座し、関西支所の「守り神」としての役目を果たしている。



朝護孫子寺とトラ

## (3) 大阪渡船場めぐり(21/11/23、12km)

大阪は水の都といわれるほど川や運河が多く、庶民の足を確保するため、無料の市営渡船がある。現在運行中の渡船場は天保山(安治川：400m)、落合上(木津川：100m)、落合下(木津川：138m)、千本松(木津川：230m)、木津川(木津川：238m)、船町(木津川運河：75m)、千歳(大正内港：371m)及び甚兵衛(尻無川：94m)の全部で8ヶ所あり、今回は、天保山渡船を除く7ヶ所を効率よく一度ずつ渡りきるため、全長12kmのコース設定をした。あいにく季節は11月下旬だったため、川風の気持ちよさを味わうことが出来なかったのが残念である。



甚兵衛渡船(尻無川)

#### (4) 淀川完歩 (22/5/15・5/29・6/19、75km)

ご存じのとおり、淀川は琵琶湖に端を発し、大阪湾まで約75kmの河川である。これを3区間25kmずつに分けて歩いた。1回目は琵琶湖から宇治まで、2回目は宇治から枚方まで、3回目は枚方から河口までである。琵琶湖からは川沿いの平坦な遊歩道で快適であったが、しばらくするとかなりの部分が歩道のない車道を歩くため、常に通行車両を気にしながらのかなりきつい行程だった。宇治からは一部車道を歩くこともあったがほぼ川沿いであり、軽快に歩くことができた。



瀬田川の流れ

途中の伏見では寺田屋騒動（文久2年、1862年）や坂本龍馬襲撃（慶応2年、1866年）で有名な寺田屋まで足を伸ばし、江戸末期の歴史



伏見：寺田屋

に触れたりした。後で知ったことだが、現在の寺田屋の建物は、明治になって再建されたそうである。

淀川は、琵琶湖からの名は瀬田川、途中いくつかの支流と合流して、やがて京都府になると宇治川と名を変え、さらに木津川、桂川と合流して淀川と名を変える。景色を眺めながらいぶん気持ちのいい思いをしたのは、宇治川（宇治市あたり）までで後は単調な堤防歩きとなった。

堤防歩きの途中、写真のような珍しい橋に出会った。これはJR西日本の城東貨物線赤川鉄橋に併設されている歩道橋で、木製であるため、歩くと弾力を感じられる。一度、その感触を確かめられたら如何だろうか。



赤川鉄橋の木製歩道橋

#### (5) 高見山 (22/10/23、10km)

この山は関西のマッターホルンと呼ばれる山で、冬期間は樹氷で有名であるが、残念ながら私は積雪期の山には登らないことにしている。さて、この山に登るため地形図を調べていたら、登山道に□マークがあるではないか。地理院の地形図だから正真正銘の水準点に違いないと思い、調べてみると一等水準点 No.1538 と No.1537 で正常な状態にあることがわかった。埋標年月は明治21年12月、最近の観測は平成12年7月に行われている。

一体なぜ、こんな登山道に水準点を設置しなくてはならなかったのだろうか。この登山道は、もともとは伊勢南街道（単に伊勢街道とも言われている）という和歌山から五條を経て伊勢まで結ぶ街道の一部である。紀州の殿様が参勤交代の時も利用したといわれている。明治の頃、水準路線を設定する際、この街道上に水準路線を選定したものと思われる。



伊勢南街道と水準点



一等水準点No.1537

紹介したコース以外にも生駒山縦走（22km）、高野山町石道（23km）、吉野山（16km）、葛城山（22km）、愛宕山（15km）、釈迦岳（16km）、金剛山（12km）、大台ヶ原（9km）、保津峡（17km）、六甲山（14km）等々、それぞれの行き場所で沢山の思い出がある。



<高野山：大門>



<大台ヶ原>



<保津峡>

最初にも書いたようにほぼ月に2回ペースの山行が単なる暇つぶしではなく、もはや格別の楽しみになりつつあることから、私にとっての「極上の休日」と言ってもいいだろう。大阪での单身生活がいつ終わるかわからないが、残りの日数でどこまで距離を延ばせるか、距離を稼ぎつつ、これからも暇つぶしを大いに楽しみたいと思う。